

令和 6 年 度

福 津 市 公 共 下 水 道 事 業 会 計 決 算  
審 査 意 見 書



福津市監査委員

7 福監第 46 号

令和 7 年 8 月 15 日

福津市長 福井 崇郎 様

福津市監査委員 木村 道也

福津市監査委員 榎本 博

令和 6 年度 福津市公共下水道事業会計決算に係る審査意見について

地方公営企業法第 30 条の規定に基づき審査に付された令和 6 年度福津市公共下水道事業会計に係る書類について、福津市監査委員監査基準に基づいて審査したので、別紙のとおり意見を提出する。

## 目 次

|                  |    |
|------------------|----|
| 1. 審査対象.....     | 1  |
| 2. 審査期日.....     | 1  |
| 3. 審査方法.....     | 1  |
| 4. 審査結果.....     | 1  |
| ①公共下水道事業の概況..... | 2  |
| ②予算決算の概況.....    | 3  |
| ③経営成績.....       | 6  |
| ④財政状態.....       | 8  |
| ⑤資金収支状況.....     | 10 |
| ⑥経営指標.....       | 12 |
| 総 括.....         | 13 |

### (注釈)

1. 意見書内の比率等は、表示単位未満を四捨五入しているので、総数と内訳の合計は一致しない場合がある。

## 1. 審査対象

令和6年度 福津市公共下水道事業会計決算

### 1. 決算書

### 2. 決算附属書類

- (1) 事業報告書
- (2) キャッシュ・フロー計算書
- (3) 収益費用明細書
- (4) 固定資産明細書
- (5) 企業債明細書

## 2. 審査期日

令和7年7月1日から8月14日まで

## 3. 審査方法

審査は、決算書及び附属書類が関係法令に準拠して作成されているか確認するとともに、これらの計数が正確であるか検証するため、関係諸帳簿と証拠書類を照合し、関係部署から聴取を行い実施した。

## 4. 審査結果

審査に付された決算書及び附属書類は、いずれも関係法令に準拠して作成され、当年度の財政状態、経営成績を適正に表示していること、そして、関係諸帳簿と証拠書類の照合により、これらの計数が正確であることを確認した。よって、地方公営企業法第30条の規定に基づく審査結果をここに報告する。

なお、審査結果の詳細については以下に記す。

## ①公共下水道事業の概況

### (1)業務の状況

| 事項           |           | 単位                | 令和 5 年度   | 令和 6 年度   | 増減      | 前年度比<br>(%) |
|--------------|-----------|-------------------|-----------|-----------|---------|-------------|
| 行政区域内人口 (A)  |           | 人                 | 68,749    | 69,200    | 451     | 0.7         |
| 処理区域内人口 (B)  |           | 人                 | 68,543    | 68,982    | 439     | 0.6         |
| 水洗化人口 (C)    |           | 人                 | 63,452    | 64,226    | 774     | 1.2         |
| 普及率 (B)/(A)  |           | %                 | 99.7      | 99.7      | 0       |             |
| 水洗化率 (C)/(B) |           | %                 | 92.6      | 93.1      | 0.5     |             |
| 処理区域面積       |           | ha                | 1,299     | 1,304     | 5       | 0.4         |
| 処理能力         |           | m <sup>3</sup> /日 | 23,100    | 23,100    | 0       | 0           |
| 処理水量         | 年間        | m <sup>3</sup>    | 6,288,840 | 6,419,856 | 131,016 | 2.1         |
|              | 1 か月平均    | m <sup>3</sup>    | 524,070   | 534,988   | 10,918  | 2.1         |
|              | 1 日平均     | m <sup>3</sup>    | 15,162    | 15,598    | 436     | 2.9         |
|              | 1 日最大     | m <sup>3</sup>    | 17,376    | 18,692    | 1,316   | 7.6         |
|              | 1 人 1 日平均 | ℓ                 | 239       | 243       | 4       | 1.7         |
| 有収水量         | 年間        | m <sup>3</sup>    | 5,297,911 | 5,373,787 | 75,876  | 1.4         |
|              | 1 か月平均    | m <sup>3</sup>    | 441,493   | 447,816   | 6,323   | 1.4         |
|              | 1 日平均     | m <sup>3</sup>    | 14,475    | 14,722    | 247     | 1.7         |
|              | 1 人 1 日平均 | ℓ                 | 228       | 229       | 1       | 0.4         |
| 年間汚泥処分量      |           | m <sup>3</sup>    | 4,018     | 4,130     | 112     | 2.8         |
| 有収率          |           | %                 | 84.2      | 83.7      | △0.5    |             |

令和 6 年度においては、下水道処理区域内の人口が 439 人（0.6%）増加し、下水道普及率は前年度と同じ 99.7%である。また、水洗化人口は 774 人（1.2%）増加し、水洗化率は前年度より 0.5 ポイント上昇して、93.1%となった。

年間総処理水量は、福岡浄化センターにおいて 4,923,160 m<sup>3</sup>（対前年度比 2.4%増）、津屋崎浄化センターにおいて 1,496,696 m<sup>3</sup>（対前年度比 1.2%増）となっている。両施設の合計では、6,419,856 m<sup>3</sup>となり、前年度の合計 6,288,840 m<sup>3</sup>と比べて 2.1%増加している。

### (2)建設改良事業の状況

東福岡地区において管渠更生工事、若木台地区においてマンホール蓋更新工事が実施された。また、上西郷地区及び勝浦地区において、マンホールポンプ場の改築工事が行われ、汚水ポンプや制御盤が更新された。

処理場については、津屋崎浄化センターの水処理設備の改築工事が令和 5 年度に引続き実施され、汚泥処理設備の改築工事が令和 6 年度から開始されている。

## ②予算決算の概況

### (1)収益的収入及び支出

収益的収支決算の状況は、下水道事業収益の予算額 2,256,742,000 円に対し、消費税込決算額が 2,259,178,538 円で収入率 100.1%、下水道事業費用の予算額 1,939,688,000 円に対し、消費税込決算額が 1,915,835,566 円で 執行率 98.8%である。この結果、消費税込みの収支差引額は 343,342,972 円の黒字となっている。

収益的収支の決算状況は、次表のとおりである。

表 収益的収支の決算状況（単位：円・%）

| 区分    | 科目      | 予算額(A)        | 決算額           |              | 予算・決算比較<br>(B)-(A) | 収入率<br>(B)/(A) |
|-------|---------|---------------|---------------|--------------|--------------------|----------------|
|       |         |               | 消費税込<br>(B)   | Bのうち<br>消費税額 |                    |                |
| 収入    | 下水道事業収益 | 2,256,742,000 | 2,259,178,538 | 88,504,026   | 2,436,538          | 100.1%         |
|       | 営業収益    | 1,028,849,000 | 1,030,010,191 | 88,453,221   | 1,161,191          | 100.1%         |
|       | 営業外収益   | 1,227,892,000 | 1,229,140,441 | 48,270       | 1,248,441          | 100.1%         |
|       | 特別利益    | 1,000         | 27,906        | 2,535        | 26,906             | 2,790.6%       |
| 区分    | 科目      | 予算額(A)        | 決算額           |              | 不用額<br>(A)-(B)     | 執行率<br>(B)/(A) |
|       |         |               | 消費税込<br>(B)   | Bのうち<br>消費税額 |                    |                |
| 支出    | 下水道事業費用 | 1,939,688,000 | 1,915,835,566 | 46,600,132   | 23,852,434         | 98.8%          |
|       | 営業費用    | 1,688,342,000 | 1,674,764,589 | 46,600,132   | 13,577,411         | 99.2%          |
|       | 営業外費用   | 241,096,000   | 241,054,008   |              | 41,992             | 100.0%         |
|       | 特別損失    | 250,000       | 16,969        |              | 233,031            | 6.8%           |
|       | 予備費     | 10,000,000    | 0             |              | 10,000,000         | 0.0%           |
| 収支差引額 |         | 317,054,000   | 343,342,972   | —            | —                  | —              |

(2) 資本的収入及び支出

資本的収支決算の状況は、資本的収入の予算額 473,396,000 円に対し、消費税込決算額 358,510,000 円で収入率 75.7%、資本的支出の予算額 1,216,265,000 円に対し、消費税込決算額 1,079,958,557 円で執行率は 88.8%であり、721,448,557 円の収入不足が生じている。これに対しては、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 7,375,751 円、当年度分損益勘定留保資金 421,828,998 円、減債積立金 292,243,808 円によって補てんしている。

資本的収支の決算状況は、次表のとおりである。

表 資本的収支の決算状況（単位：円・%）

| 区分    | 科目     | 予算額 (A)       | 決 算 額         |               | 予算・決算比較       |            | 収入率       |
|-------|--------|---------------|---------------|---------------|---------------|------------|-----------|
|       |        |               | 消費税込<br>(B)   | B のうち<br>消費税額 | (B) - (A)     |            | (B) / (A) |
| 収入    | 資本的収入  | 473,396,000   | 358,510,000   | 0             | △ 114,886,000 |            | 75.7%     |
|       | 企業債    | 227,900,000   | 177,200,000   | 0             | △ 50,700,000  |            | 77.8%     |
|       | 負担金    | 92,195,000    | 91,659,000    | 0             | △ 536,000     |            | 99.4%     |
|       | 補助金    | 153,301,000   | 89,651,000    | 0             | △ 63,650,000  |            | 58.5%     |
| 区分    | 科目     | 予算額 (A)       | 決 算 額         |               | 翌年度繰越額        | 不用額        | 執行率       |
|       |        |               | 消費税込<br>(B)   | B のうち<br>消費税額 | (C)           |            | (B) / (A) |
| 支出    | 資本的支出  | 1,216,265,000 | 1,079,958,557 | 19,959,590    | 120,000,000   | 16,306,443 | 88.8%     |
|       | 建設改良費  | 365,975,000   | 239,669,420   | 19,959,590    | 120,000,000   | 6,305,580  | 65.5%     |
|       | 企業債償還金 | 840,290,000   | 840,289,137   | 0             | 0             | 863        | 100.0%    |
|       | 予備費    | 10,000,000    | 0             | 0             | 0             | 10,000,000 | 0.0%      |
| 収支差引額 |        | △ 742,869,000 | △ 721,448,557 |               | —             | —          | —         |

### (3) 企業債の概況

令和 5 年度末における企業債の残高は 13,930,250,507 円であり、令和 6 年度中に発行した企業債の額は 177,200,000 円、償還した額は 840,289,137 円であった。この結果、令和 6 年度末における企業債の未償還残高は 13,267,161,370 円となり、前年度末に比べて 663,089,137 円（4.8%）減少している。

表 企業債の増減及び内訳（単位：円）

| 借入先                 | 令和 5 年度末<br>残高 | 令和 6 年度中<br>増加額 | 令和 6 年度中<br>償還額 | 令和 6 年度末<br>残高 |
|---------------------|----------------|-----------------|-----------------|----------------|
| 財務省<br>財政融資資金       | 5,824,509,700  | 0               | 345,137,728     | 5,479,371,972  |
| 郵便貯金・簡易<br>生命保険管理機構 | 1,400,022,952  | 0               | 156,495,367     | 1,243,527,585  |
| 地方公共団体<br>金融機構      | 6,283,717,855  | 118,200,000     | 288,179,682     | 6,113,738,173  |
| 福岡銀行                | 123,400,000    | 0               | 16,100,000      | 107,300,000    |
| 西日本シティ銀行            | 119,600,000    | 0               | 19,900,000      | 99,700,000     |
| 肥後銀行                | 168,500,000    | 59,000,000      | 7,476,360       | 220,023,640    |
| 北九州銀行               | 10,500,000     | 0               | 7,000,000       | 3,500,000      |
| 計                   | 13,930,250,507 | 177,200,000     | 840,289,137     | 13,267,161,370 |

### (4) 一般会計繰入金（他会計負担金等）

一般会計繰入金は、繰入基準内の負担金として収益的収入に 351,614,000 円、資本的収入に 91,659,000 円の合計 443,273,000 円を繰り入れている他、繰入基準外の補助金として、収益的収入に 297,685,000 円を繰り入れている。

### (5) 一時借入金

令和 6 年度については、一般会計からの一時借入を行っていない。

### ③経営成績

令和 6 年度の経営成績は、総収益が前年度に比べ 2,448,241 円（0.1％）増の 2,170,674,512 円、総費用が前年度に比べ 30,363,613 円（1.7％）増の 1,834,707,291 円となった。これにより、当年度純利益は前年度に比べ 27,915,372 円（7.7％）減の 335,967,221 円となり、その他未処分利益剰余金変動額 292,243,808 円を加えた当年度未処分利益剰余金は 628,211,029 円となっている。

#### (1)総収支

総収益の決算額 2,170,674,512 円の内訳は、営業収益が 941,556,970 円、営業外収益が 1,229,092,171 円、特別利益が 25,371 円であった。特別利益は使用開始時点に遡って使用料を賦課したことによる過年度損益修正益である。

総費用の決算額 1,834,707,291 円の内訳は、営業費用が 1,628,164,457 円、営業外費用が 206,525,865 円、特別損失が 16,969 円であった。特別損失は下水道使用料還付に伴う過年度損益修正損を計上している。

#### (2)営業収支

営業収益 941,556,970 円の主なものは下水道使用料 885,329,870 円（総収益の 40.8％）であり、営業費用 1,628,164,457 円の主なものは減価償却費 1,047,223,451 円（総費用の 57.1％）、処理場費 386,576,346 円（総費用の 21.1％）である。営業費用に対する営業収益の比率である営業収支比率（営業収益/営業費用）は 57.8％となった。

#### (3)下水道使用料の収入状況（税込）

令和 6 年度の下水道使用料は調定額 973,783,091 円に対し、収入済額は 856,256,168 円であった。この結果、収入率は 87.9％、未収入額は 117,526,923 円となった。

下水道使用料の賦課・徴収については宗像地区事務組合に事務を委任しており、事務組合 3 月収納分については公共下水道事業会計への収入が 4 月以降であることから、すべて未収扱いとなっている。このため、下水道使用料の調定額の増加に合わせて未収入額も増加している。

過年度分下水道使用料については調定額 118,232,590 円に対し、収入済額は 115,777,389 円であった。この結果、収入率は 97.9％、未収入額は 2,455,201 円となった。未収入額のうち、203,047 円については貸倒引当金を取り崩し、時効による消滅債権について不納欠損処理をしている。

表 下水道使用料収納状況（単位：円・税込） ※税込のため次ページの表とは一致しない。

| 種別     | 年度 | 調定額         | 収入済額        | 未収入額        | 収入率（％） |
|--------|----|-------------|-------------|-------------|--------|
| 下水道使用料 | R5 | 959,141,121 | 843,413,354 | 115,727,767 | 87.9   |
|        | R6 | 973,783,091 | 856,256,168 | 117,526,923 | 87.9   |
|        | 比較 | 14,641,970  | 12,842,814  | 1,799,156   | 0      |

（参考）過年度分下水道使用料収納状況 ※予算計上項目ではないため参考値である。

| 種別              | 年度 | 調定額         | 収入済額        | 未収入額      | 収入率（％） |
|-----------------|----|-------------|-------------|-----------|--------|
| 下水道使用料<br>（過年度） | R5 | 114,147,377 | 111,334,926 | 2,812,451 | 97.5   |
|                 | R6 | 118,232,590 | 115,777,389 | 2,455,201 | 97.9   |
|                 | 比較 | 4,085,213   | 4,442,463   | △357,250  | 0.4    |

表 収益費用の前年度比較（単位：円、％・税抜）

|               | 令和 5 年度       |            | 令和 6 年度       |            | 対前年度         |            |
|---------------|---------------|------------|---------------|------------|--------------|------------|
|               | 金額            | 構成比<br>(%) | 金額            | 構成比<br>(%) | 差引           | 増減率<br>(%) |
| 営業収益          | 946,913,383   | 43.7       | 941,556,970   | 43.4       | △ 5,356,413  | △ 0.6      |
| 下水道使用料        | 872,017,773   | 40.2       | 885,329,870   | 40.8       | 13,312,097   | 1.5        |
| 他会計負担金        | 54,068,000    | 2.5        | 55,071,000    | 2.5        | 1,003,000    | 1.9        |
| 受託事業収益        | 20,371,610    | 0.9        | 0             | 0          | △ 20,371,610 | △ 100.0    |
| その他営業収益       | 366,000       | 0.0        | 1,006,100     | 0          | 640,100      | 174.9      |
| 国庫補助金         | 90,000        | 0.0        | 150,000       | 0          | 60,000       | 66.7       |
| 営業外収益         | 1,221,198,452 | 56.3       | 1,229,092,171 | 56.6       | 7,893,719    | 0.6        |
| 受取利息及び<br>配当金 | 8,214         | 0.0        | 152,874       | 0          | 144,660      | 1761.1     |
| 他会計負担金        | 199,585,000   | 9.2        | 296,543,000   | 13.7       | 96,958,000   | 48.6       |
| 他会計補助金        | 396,485,000   | 18.3       | 297,685,000   | 13.7       | △ 98,800,000 | △ 24.9     |
| 長期前受金戻入       | 624,688,298   | 28.8       | 633,893,627   | 29.2       | 9,205,329    | 1.5        |
| 雑収益           | 431,940       | 0.0        | 817,670       | 0          | 385,730      | 89.3       |
| 特別利益          | 114,436       | 0.0        | 25,371        | 0          | △ 89,065     | △ 77.8     |
| 過年度損益修正益      | 114,436       | 0.0        | 25,371        | 0          | △ 89,065     | △ 77.8     |
| 総収益           | 2,168,226,271 | 100.0      | 2,170,674,512 | 100.0      | 2,448,241    | 0.1        |
| 営業費用          | 1,586,029,067 | 87.9       | 1,628,164,457 | 88.7       | 42,135,390   | 2.7        |
| 管渠費           | 82,243,766    | 4.6        | 90,299,460    | 4.9        | 8,055,694    | 9.8        |
| 処理場費          | 349,783,192   | 19.4       | 386,576,346   | 21.1       | 36,793,154   | 10.5       |
| 普及指導費         | 190,900       | 0.0        | 310,900       | 0          | 120,000      | 62.9       |
| 業務費           | 53,257,848    | 3.0        | 55,673,648    | 3.0        | 2,415,800    | 4.5        |
| 総係費           | 34,194,425    | 1.9        | 39,581,478    | 2.2        | 5,387,053    | 15.8       |
| 受託事業費         | 19,180,000    | 1.1        | 0             | 0          | △ 19,180,000 | △ 100.0    |
| 減価償却費         | 1,044,687,505 | 57.9       | 1,047,223,451 | 57.1       | 2,535,946    | 0.2        |
| 資産減耗費         | 2,491,431     | 0.1        | 8,499,174     | 0.5        | 6,007,743    | 241.1      |
| 営業外費用         | 217,850,126   | 12.1       | 206,525,865   | 11.3       | △ 11,324,261 | △ 5.2      |
| 支払利息          | 214,656,253   | 11.9       | 202,634,808   | 11.0       | △ 12,021,445 | △ 5.6      |
| 雑支出           | 3,193,873     | 0.2        | 3,891,057     | 0.2        | 697,184      | 21.8       |
| 特別損失          | 464,485       | 0.0        | 16,969        | 0.0        | △ 447,516    | △ 96.3     |
| 過年度損益修正損      | 464,485       | 0.0        | 16,969        | 0.0        | △ 447,516    | △ 96.3     |
| 総費用           | 1,804,343,678 | 100.0      | 1,834,707,291 | 100.0      | 30,363,613   | 1.7        |
| 純利益           | 363,882,593   |            | 335,967,221   |            | △ 27,915,372 | △ 7.7      |

#### ④財政状態

##### (1)資産

資産の合計額は前年度に比べ 792,013,984 円 (2.3%) 減の 33,787,337,788 円で、その内訳は、固定資産が 32,957,731,086 円、流動資産が 829,606,702 円となっている。

固定資産は有形固定資産が前年度に比べ 310,110,455 円 (0.7%) 増の 32,957,731,086 円、無形固定資産は皆減となっている。

流動資産は、現金預金が 709,314,449 円と前年度に比べ 85,023,864 円 (10.7%) 減となっており、それ以外では未収金が前年度に比べ 1,310,560 円 (1.1%) 増の 120,075,253 円、その他の流動資産が 500,000 円 (前年度比増減なし) となっている。

##### (2)負債・資本

負債の合計額は前年度に比べ 1,138,099,205 円 (3.6%) 減の 30,459,237,789 円で、その内訳は固定負債が 12,397,976,330 円、流動負債が 999,359,937 円、繰延収益が 17,061,901,522 円であった。なお、固定負債は全額が企業債である。

流動負債では企業債が前年度に比べ 28,895,903 円 (3.4%) 増の 869,185,040 円、未払金が 127,621,341 円 (50.7%) 減の 123,913,764 円、引当金として賞与引当金及び法定福利引当金が 380,640 円 (7.2%) 増の 5,683,935 円、預り金が 1,511 円 (0.3%) 増の 577,198 円となっている。

資本の合計額は前年度に比べ 346,085,221 円 (11.6%) 増の 3,328,099,999 円で、その内訳は資本金が 1,192,901,504 円、剰余金が 2,135,198,495 円で、剰余金の内訳は資本剰余金が 1,150,362,335 円、利益剰余金が 984,836,160 円となっている。

表 有形固定資産計算表 (単位：円・税抜)

|               | 令和 5 年度        |                 |                | 令和 6 年度        |                |                |
|---------------|----------------|-----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
|               | 評価額            | 減価償却<br>累計額     | 差引             | 評価額            | 減価償却<br>累計額    | 差引             |
| 土地            | 1,977,583,531  | 0               | 1,977,583,531  | 1,977,583,531  | 0              | 1,977,583,531  |
| 建物            | 823,648,453    | △ 144,816,104   | 678,832,349    | 823,648,453    | △162,918,117   | 660,730,336    |
| 構築物           | 33,011,934,423 | △ 5,467,902,781 | 27,544,031,642 | 33,222,763,411 | △6,189,065,196 | 27,033,698,215 |
| 機械及び<br>装置    | 5,784,553,138  | △ 2,435,942,598 | 3,348,610,540  | 5,881,022,783  | △2,713,506,525 | 3,167,516,258  |
| 工具、器具<br>及び備品 | 3,238,046      | △ 1,119,406     | 2,118,640      | 4,017,991      | △1,456,186     | 2,561,805      |
| 建設<br>仮勘定     | 113,609,064    | 0               | 113,609,064    | 115,640,941    | 0              | 115,640,941    |
| 合計            | 41,714,566,655 | △ 8,049,780,889 | 33,664,785,766 | 42,024,677,110 | △9,066,946,024 | 32,957,731,086 |

表 貸借対照表の前年度比較（単位：円、％・税抜）

|                 | 令和５年度           |       | 令和６年度           |       | 対前年度            |         |
|-----------------|-----------------|-------|-----------------|-------|-----------------|---------|
|                 | 金額              | 構成比   | 金額              | 構成比   | 差引              | 前年比     |
| 固定資産            | 33,666,029,766  | 97.4  | 32,957,731,086  | 97.5  | △ 708,298,680   | △ 2.1   |
| 有形固定資産          | 41,714,566,655  | 97.4  | 42,024,677,110  | 97.5  | 310,110,455     | 0.7     |
| （内、減価償却累計額）     | △ 8,049,780,889 |       | △ 9,066,946,024 |       | △ 1,017,165,135 | 12.6    |
| 無形固定資産          | 1,244,000       | 0.0   | 0               | 0.0   | △ 1,244,000     | △ 100.0 |
| 流動資産            | 913,322,006     | 2.6   | 829,606,702     | 2.5   | △ 83,715,304    | △ 9.2   |
| 現金預金            | 794,338,313     | 2.3   | 709,314,449     | 2.1   | △ 85,023,864    | △ 10.7  |
| 未収金             | 118,764,693     | 0.3   | 120,075,253     | 0.4   | 1,310,560       | 1.1     |
| （内、貸倒引当金）       | △ 281,000       |       | △ 283,000       |       | △ 2,000         | 0.7     |
| その他流動資産         | 500,000         | 0.0   | 500,000         | 0.0   | 0               | 0.0     |
| 資産合計            | 34,579,351,772  | 100.0 | 33,787,337,788  | 100.0 | △ 792,013,984   | △ 2.3   |
| 固定負債            | 13,089,961,370  | 41.4  | 12,397,976,330  | 40.7  | △ 691,985,040   | △ 5.3   |
| 企業債             | 13,089,961,370  | 41.4  | 12,397,976,330  | 40.7  | △ 691,985,040   | △ 5.3   |
| 流動負債            | 1,097,703,224   | 3.5   | 999,359,937     | 3.3   | △ 98,343,287    | △ 9.0   |
| 企業債             | 840,289,137     | 2.7   | 869,185,040     | 2.9   | 28,895,903      | 3.4     |
| 未払金             | 251,535,105     | 0.8   | 123,913,764     | 0.4   | △ 127,621,341   | △ 50.7  |
| 引当金             | 5,303,295       | 0.0   | 5,683,935       | 0.0   | 380,640         | 7.2     |
| 預り金             | 575,687         | 0.0   | 577,198         | 0.0   | 1,511           | 0.3     |
| 繰延収益            | 17,409,672,400  | 55.1  | 17,061,901,522  | 56.0  | △ 347,770,878   | △ 2.0   |
| 長期前受金           | 21,969,544,010  | 55.1  | 22,232,212,148  | 56.0  | 262,668,138     | 1.2     |
| （内、長期前受金収益化累計額） | △ 4,559,871,610 |       | △ 5,170,310,626 |       | △ 610,439,016   | 13.4    |
| 負債合計            | 31,597,336,994  | 100.0 | 30,459,237,789  | 100.0 | △ 1,138,099,205 | △ 3.6   |
| 資本金             | 896,091,869     | 30.0  | 1,192,901,504   | 35.8  | 296,809,635     | 33.1    |
| 剰余金             | 2,085,922,909   | 70.0  | 2,135,198,495   | 64.2  | 49,275,586      | 2.4     |
| 資本剰余金           | 1,140,244,335   | 38.2  | 1,150,362,335   | 34.6  | 10,118,000      | 0.9     |
| 利益剰余金           | 945,678,574     | 31.7  | 984,836,160     | 29.6  | 39,157,586      | 4.1     |
| 資本計             | 2,982,014,778   | 100.0 | 3,328,099,999   | 100.0 | 346,085,221     | 11.6    |
| 負債資本合計          | 34,579,351,772  | 100.0 | 33,787,337,788  | 100.0 | △ 792,013,984   | △ 2.3   |

## ⑤資金収支状況

本年度のキャッシュ・フローの状況は、次ページの表のとおりである。

事業本来の業務活動の実施に伴う資金の状況を表す「業務活動によるキャッシュ・フロー」は、当年度純利益をもとに、減価償却費や長期前受金戻入などの非現金取引や資金収支ベースの未収未払金の増減により、751,815,897 円の資金増加となっている。プラスとなっている場合は、通常の業務活動が良好であることを示しており、通常の業務活動の実施により現金を収入できていることを表している。

将来に向けた運営基盤の確立のために行う投資活動に係る資金の状況を表す「投資活動によるキャッシュ・フロー」は、国庫補助金及び一般会計負担金等の資金収入があったものの、固定資産の取得や改築工事等への資金投資による支出が収入を上回った結果、96,550,950 円の資金減少となっている。

企業債などの発行、償還などによる収支等資金の調達及び返済を示す「財務活動によるキャッシュ・フロー」は、新規の企業債借入額が元金償還額を下回ったことにより、740,288,811 円の資金減少となっている。

「業務活動によるキャッシュ・フロー」が、「投資活動によるキャッシュ・フロー」と「財務活動によるキャッシュ・フロー」を補っている結果となったが、資金の増減額は期首残高に比べて 85,023,864 円減少し、709,314,449 円となっている。

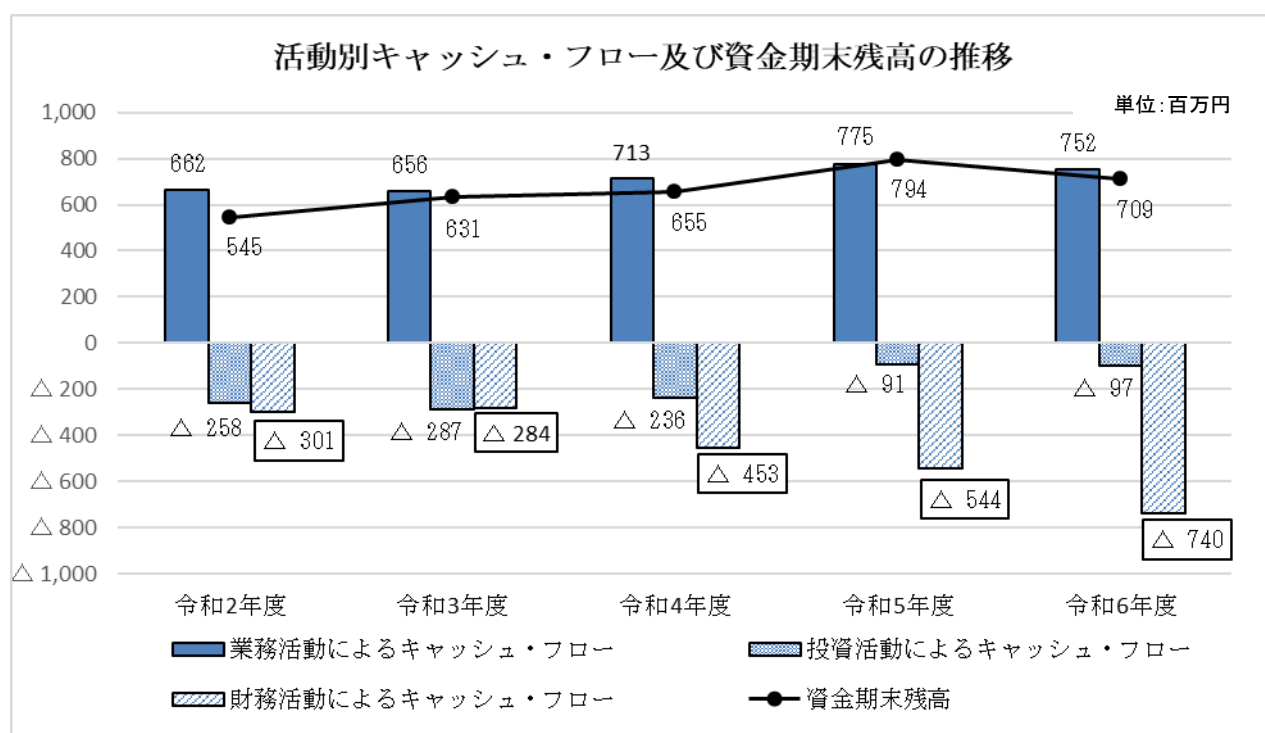


表 キャッシュ・フローの状況（単位：円）

|                    | 令和 5 年度       | 令和 6 年度       | 前年度差引         |
|--------------------|---------------|---------------|---------------|
| 1 業務活動によるキャッシュ・フロー | 775,304,747   | 751,815,897   | △ 23,488,850  |
| 当年度純利益             | 363,882,593   | 335,967,221   | △ 27,915,372  |
| 減価償却費              | 1,044,687,505 | 1,047,223,451 | 2,535,946     |
| 固定資産除却費            | 2,491,431     | 8,499,174     | 6,007,743     |
| 賞与引当金増減額           | △ 142,052     | 161,429       | 303,481       |
| 法定福利引当金増減額         | △ 12,169      | 19,684        | 31,853        |
| 貸倒引当金増減額           | △ 29,000      | 2,000         | 31,000        |
| 長期前受金戻入            | △ 624,688,298 | △ 633,893,627 | △ 9,205,329   |
| 受取利息及び配当金          | △ 8,214       | △ 152,874     | △ 144,660     |
| 支払利息               | 214,656,253   | 202,634,808   | △ 12,021,445  |
| 未収金の増減額            | △ 4,100,747   | △ 1,310,560   | 2,790,187     |
| 未払金の増減額            | △ 20,254,529  | 8,572,502     | 28,827,031    |
| 預り金の増減額            | 43,125        | 1,511         | △ 41,614      |
| 小 計                | 976,525,898   | 967,724,719   | △ 8,801,179   |
| 利息及び配当金の受取額        | 8,214         | 152,874       | 144,660       |
| 利息の支払額             | △ 201,229,365 | △ 216,061,696 | △ 14,832,331  |
| 2 投資活動によるキャッシュ・フロー | △ 91,251,417  | △ 96,550,950  | △ 5,299,533   |
| 固定資産の取得による支出       | △ 257,612,948 | △ 265,277,111 | △ 7,664,163   |
| 固定資産の売却による収入       | 0             | 0             | 0             |
| 国庫補助金等による収入        | 75,119,508    | 81,512,267    | 6,392,759     |
| 他会計負担金による収入        | 80,939,423    | 87,213,894    | 6,274,471     |
| 負担金寄付金による収入        | 10,302,600    | 0             | △ 10,302,600  |
| 3 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 544,389,726 | △ 740,288,811 | △ 195,899,085 |
| 企業債の発行による収入        | 194,600,000   | 177,200,000   | △ 17,400,000  |
| 企業債の償還による支出        | △ 738,989,726 | △ 917,488,811 | △ 178,499,085 |
| 一時借入による収入          | 0             | 0             | 0             |
| 一時借入金の償還による支出      | 0             | 0             | 0             |
| 資金の増減額（1 + 2 + 3）  | 139,663,604   | △ 85,023,864  | △ 224,687,468 |
| 資金期首残高             | 654,674,709   | 794,338,313   | 139,663,604   |
| 資金期末残高             | 794,338,313   | 709,314,449   | △ 85,023,864  |

## ⑥経営指標

| 指標      | 単位               | 算式                                                                             | R5    | R6    |
|---------|------------------|--------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|
| 経常収支比率  | %                | $\frac{(\text{営業収益} + \text{営業外収益})}{(\text{営業費用} + \text{営業外費用})} \times 100$ | 120.2 | 118.3 |
| 流動比率    | %                | $\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$                                   | 83.2  | 83.0  |
| 使用料単価   | 円/m <sup>3</sup> | $\frac{\text{使用料収入}}{\text{年間有収水量}}$                                           | 164.6 | 164.7 |
| 汚水処理原価  | 円/m <sup>3</sup> | $\frac{\text{汚水処理費用}}{\text{年間有収水量}}$                                          | 160.8 | 162.0 |
| 処理原価回収率 | %                | $\frac{\text{使用料単価}}{\text{汚水処理原価}} \times 100$                                | 102.4 | 101.7 |

令和6年度の経営状況について、いくつかの指標にあてはめたものが上記の表である。

経営の安定性を示す「経常収支比率」は118.3%で前年度に比べ1.9ポイント減少したものの下水道使用料や一般会計繰入金等の3条収益で維持管理費や支払利息等の3条費用を賄っている経営状況が堅持されている。

「流動比率」は、前年度とほぼ変わらず83.0%であった。今後も企業債等の返済に備え、支払い能力を高める経営努力が求められる。

「処理原価回収率」は101.7%で前年度に比べ0.7ポイント減少したものの下水道使用料で汚水処理費を賄うことができている。

### ※各指標について

#### 【経常収支比率】

経常収益（営業収益＋営業外収益）と経常費用（営業費用＋営業外費用）の割合で、収益的収支の経営状況を分析するもので、100%以上である時は経営が安定しているといえる。

#### 【流動比率】

流動負債に対する流動資産の割合で、短期債務に対する支払能力を示す。1年以内に現金化できる資産と1年以内に支払わなければならない負債との比較で、比率が高いほど短期支払い能力の高さと経営の安全性を示す。

#### 【使用料単価】

有収水量1m<sup>3</sup>あたりの使用料収入であり、使用料の水準を表す。

#### 【汚水処理原価】

有収水量1m<sup>3</sup>あたりの汚水処理費を示したもの。汚水処理費は、維持管理費（管渠費、処理場費等）と資本費（汚水に係る企業債利息及び減価償却費）の合計を示す。

#### 【処理原価回収率】

汚水処理に要した費用に対する、使用料による回収程度を示す。

## 総 括

以上が令和 6 年度福津市公共下水道事業会計決算の概要であるが、適正に執行されていると認める。

最後に、監査委員としての意見を以下に記す。

令和 6 年度末の処理区域内人口は前年度から 439 人増え 68,982 人となり、水洗化率は水洗化人口が 774 人増加したことにより 0.5 ポイント上昇し、93.1%となっている。排水戸数の増加（前年度比 1.7%増）にともない総汚水処理水量も前年度に比べ 2.1 ポイント上昇している。

経営状況をみると、下水道使用料や一般会計繰入金等で維持管理費や支払利息等をどの程度賄えているかを表す経常収支比率は 118.3%であった。また、汚水処理に要した費用を使用料収入によってどれだけ回収できているかを示す指標である経費回収率も 100%以上を維持できていることから、前年度に引続き良好な経営状況が当年度も堅持されている。

一方で、本市は平成 17 年の合併以降、公共下水道の整備を集中的に進め、それに伴う企業債の借入れも重ねられてきた経緯があり、企業債償還のピークに向けた財源不足に対応するために繰入金の増加が見込まれている。

当年度においては他会計からの基準外繰入金は減少したものの、将来的な財政負担の拡大を防ぐ観点からも基準外繰入金は計画的に抑制すべき状況であることに変わりはない。

また、短期債務に対する支払能力を示す流動比率は 100%に達しておらず、1 年以内に現金化できる資産によって、同期間内に支払うべき負債を十分に賄えていない経営状況である。この流動比率は、建設改良費に充てられた企業債を含む流動負債に対する流動資産の割合を示す指標であるが、今後の使用料収入の更なる増加が見込みにくい中で、企業債償還のピークを迎えることは、繰入金への依存度を高めることにつながる。

現行の料金収入でその原資を十分に確保できるかを慎重に分析し、将来的な償還に備えるためにも使用料の見直しを含めた経営改善策を検討し、支払い能力を高めるとともに、経営体質の強化を図ることが望まれる。

施設の計画的な改築やストックマネジメントの導入によるコスト縮減効果が示されている点は評価できるものの、経営資源の効率的な活用や長期的に安定した事業経営の確立を目指すためには、ストックマネジメントの的確な実施や経済性の観点から既存事業の見直しを行うなど、将来負担の抑制に向けた不断の取組が求められている。

以上